福岡大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である福岡大学病院，専門研修連携施設の福岡赤十字病院、福岡大学筑紫病院，九州がんセンター、白十字病院、唐津赤十字病院、福岡東医療センター、福岡市立こども病院，原三信病院，中頭病院，北九州市立医療センター，福岡徳洲会病院、九州大学病院，鹿児島大学病院、宮崎大学医学部附属病院、大分大学医学部附属病院、佐賀大学医学部附属病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

本研修プログラムでは,基幹施設である福岡大学病院を中心に、心臓外科手術，外傷手術，肺移植手術の経験に加え,末梢神経ブロックの症例も豊富に経験できる。また,術後痛の治療，ペインクリニック，緩和医療，集中治療，周産期医療など,麻酔に関連する各分野での幅広い研修を提供する。更に、小児専門病院での研修や、九州内の大学病院との連携により幅広い研修が可能である。福岡市近郊に多数の関連施設があり，長時間の通勤や転居の必要がなく，子育てをしながらの研修も可能なプログラムである。

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．
麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアル（https://anesth.or.jp/files/pdf/07-senkoi-kensyu.pdf）に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 原則として研修の前半2年間のうち1年，後半2年間のうち1年は，福岡大学病院で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する．
- すべての領域を満遍なく経験できるようにローテーションを考慮するが，小児診療，ペインクリニック，集中治療を中心に学びたい者など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する．
- 地域医療の経験のため，地域医療支援病院である福岡大学筑紫病院，福岡東医療センター，唐津赤十字病院，福岡市立こども病院，福岡赤十字病院，白十字病院，北九州市立医療センター，中頭病院，福岡徳洲会病院のいずれかでも研修を行う。
- 九州地域の専門研修基幹施設（九州大学病院，鹿児島大学病院，宮崎大学医学部附属病院，大分大学医学部附属病院、佐賀大学医学部附属病院）と連携し，各施設で専門性の高い特徴的な症例を経験する。
- 十分な必要症例数を経験できる連携施設では，4年間のうち6ヵ月を研修基幹施設である福岡大学病院、6ヵ月を九州地域の専門研修基幹施設で研修を行い，残りの期間を連携施設で研修することもできる。

研修実施計画例

	標準例１	標準例２	標準例３	小児例
初年度 前期	福岡大学病院	福岡赤十字病院	福岡大学 筑紫病院	福岡大学病院
初年度 後期	福岡大学 筑紫病院	福岡大学病院	福岡大学病院	福岡大学 筑紫病院
２年度 前期	福岡大学病院	福岡東医療 センター	福岡赤十字病院	福岡赤十字病院

２年度 後期	福岡赤十字病院	福岡大学病院	唐津赤十字 病院	福岡大学病院
３年度 前期	九州がんセンター	福岡大学病院 ペイン/集中治療	福岡大学病院	福岡大学病院 ペイン/集中治療
３年度 後期	福岡大学病院 ペイン/集中治療	九州連携施設 （大学病院）	福岡大学病院 ペイン/集中治療	九州連携施設 （大学病院）
４年度 前期	九州連携施設 （大学病院）	福岡大学病院	九州連携施設 （大学病院）	福岡市立 こども病院
４年度 後期	福岡大学病院	福岡大学 筑紫病院	福岡大学病院	福岡大学病院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室 （他施設）	休み 医局会 （月1回）	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	当直明け	手術室 （他施設）	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修連携施設

福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：秋吉　浩三郎

専門研修指導医：秋吉　浩三郎　（麻酔、心臓血管麻酔、緩和ケア）

重松　研二　（麻酔、集中治療）

柴田　志保　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）

佐藤　聖子　（麻酔、産科麻酔、小児麻酔）

三股　亮介　（麻酔、心臓血管麻酔）

外山　恵美子　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）

富永　将三　（麻酔、産科麻酔、小児麻酔）

南原　菜穂子　（麻酔、集中治療）

山田　宗範　　（麻酔、心臓血管麻酔、集中治療）
中西　洋太朗　（麻酔、集中治療）
越智　麻衣子　（麻酔、産科麻酔）
原　仁美　　（麻酔）
松岡　采花　　（麻酔、産科麻酔）
渡嘉敷　綾音　（麻酔、産科麻酔、集中治療）
松本　志緒里　（麻酔、心臓血管麻酔）
丸田　弦　　（麻酔、心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：92
麻酔科管理症例数：7843症例
特徴：年間約 10,000 例以上の手術症例数，約 8,000 例以上の麻酔科管理症例があります。症例数は豊富で、麻酔科専門研修に必要な症例はすべて経験することができます。施設としては、移植手術（脳死および生体肺移植術、腎移植手術）、心大血管手術や外傷手術などの緊急手術を多く経験できることが特徴です。麻酔管理では、超音波ガイド下の末梢神経ブロックを数多く行っています。また、術後疼痛管理チームによる術後の疼痛管理に積極的に取り組んでいます。術前管理にも積極的に取り組んでおり、周術期管理センターで看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し、入院前から全身状態の評価を行っています。術後管理については、麻酔科医主体で集中治療室(GICU)を運営しており、周術期を通した全身管理の他，肺炎などの内科疾患も学ぶことができます。ペインクリニックでは急性痛･慢性痛に対する薬物療法や神経ブロックを経験できます。緩和ケアではチームの一員としてがん患者とその家族の身体的･精神的苦痛を和らげる支援をしています。その他、神経ブロックを始めとする各種ハンズオン講習会・研修会を定期的に開催しており、様々な資格・認定を取得することが可能です。2025 年より新病院となり、より快適な研修環境を提供しています。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+1119445

② 専門研修連携施設
日本赤十字社　福岡赤十字病院
研修実施責任者：迎　雅彦
専門研修指導医：迎　雅彦　　（麻酔）
：岩下　耕平　（麻酔）
：生野　愼二朗（麻酔）
：平野　敦梓　（麻酔）
：緒方　大将　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：243
麻酔科管理症例数：4085例

特徴：麻酔科専門医取得に経験が求められる、帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術など、症例をバランス良く経験できる。腎センターが併設されており、透析患者や腎移植手術の麻酔管理も数多く経験することができる。全身麻酔を基本に、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、超音波ガイド下神経ブロックなど、専門医に求められる幅広い手技を経験することができる。今後、手術麻酔管理に加えて術後痛管理や無痛分娩、集中治療など、関連分野での業務を拡大していく予定である。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+1219187

③　専門研修連携施設
　　独立行政法人国立病院機構　九州がんセンター
　　研修実施責任者：秋吉　浩美　（麻酔）
　　専門研修指導医：秋吉　浩美　（麻酔）
　　：小林　祐紀子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：774
麻酔科管理症例数：2198症例
特徴：がん専門病院であり、進行癌に対する拡大手術の麻酔が経験できる。複数科合同で実施される、頭頚科領域悪性腫瘍手術に対する腫瘍切除、遊離空腸皮弁による再建術、頭頸科、消化管外科合同の食道切除、再建術、また下部消化管進行癌に対する泌尿器科または婦人科合同の骨盤内臓全摘出術など、高侵襲の手術が多数実施されている。胸腔鏡下腹臥位、開胸仰臥位食道切除再建術を含む分離肺換気症例も多く、麻酔科専門医取得に経験が求められる胸部外科手術の麻酔も数多く経験することができる。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+9919911

④　専門研修連携施設
　　福岡大学筑紫病院
　　研修実施責任者：若崎　るみ枝
　　専門研修指導医：若崎　るみ枝（麻酔）
　　：中原　春奈　（麻酔）
　　：野口　紗織　（麻酔）
　　：熊野　仁美　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：398
麻酔科管理症例数：2530症例
特徴：　地域医療支援病院であるが、福大病院本院と連携して幅広い診療科の周術期管理を経験することができる。特に整形外科、消化器外科、眼科の手術が多く行われて

いる。 2024 年度 11 月から、手術支援ロボットも導入され、消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科領域での手術支援ロボットを用いた手術の麻酔管理も経験する。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+1719129

⑤　専門研修連携施設
　　白十字病院
　　研修実施責任者：平井　孝直　　（麻酔）
　　専門研修指導医：平井　孝直　　（麻酔）
　　　　：丹羽　紗耶加　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1140
麻酔科管理症例数：2192症例
特徴： 整形外科・泌尿器科の手術症例数が多く、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、超音波ガイド下末梢神経ブロックなど、区域麻酔併用症例が豊富であり、専門医に求められる幅広い手技を経験することができる。腹部消化器外科手術の症例数が多く、泌尿器科とともにロボット支援下手術が増加している。心臓血管外科では、低侵襲心臓手術に加えて血管内手術も実施しており、脳外科開頭手術だけではなく、ハイブリッド室での血管内手術や脊椎手術など、麻酔科専門医取得のための幅広い経験を積むことができる。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+1025436

⑥　専門研修連携施設
　　唐津赤十字病院
　　研修実施責任者：白武　孝久
　　専門研修指導医：白武　孝久（麻酔）
麻酔科認定病院番号：574
麻酔科管理症例数：1674症例
特徴：佐賀県北部地域における急性期医療の中核を担っている。消化器外科、呼吸器外科、整形外科、脳外科、形成外科をはじめ様々な外科系手術が実施されており、外傷、くも膜下出血、帝王切開など緊急手術症例も経験することができる。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：41+9811356

⑦　専門研修連携施設
　　福岡東医療センター
　　研修実施責任者：楠本　剛
　　専門研修指導医：楠本　剛（麻酔）
麻酔科認定病院番号：654

麻酔科管理症例数：2046 例
特徴：福岡市東部近郊地域の救急医療を担っており、外傷・骨折などの整形外科緊急手術を数多く実施している。また、呼吸器外科手術も数多く実施されており、麻酔科専門医取得のための幅広い経験を積むことができる。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+9919804

⑧　専門研修連携施設
原三信病院
研修実施責任者：香取　清
専門研修指導医：安部　伸太郎　(麻酔)
渡邊　隆郁　(麻酔)
下澤　浩基　(麻酔)
香取　清　(麻酔)
平井　加奈　(麻酔)
吉松　美紀　(麻酔)
仁田原　見知子 (麻酔)
麻酔科認定病院番号：1684
麻酔科管理症例数：3572 症例
特徴：泌尿器科手術が多く，泌尿器科以外にも外科(呼吸器外科含む)，整形外科，婦人科，脳外科，歯科口腔外科等の手術があり，症例数も多い。開心術，帝王切開，小児手術は行っていないが、麻酔科専門医取得のために求められる様々な手技や麻酔の知識を効率よく習得できる。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+0319103

⑨　専門研修連携施設
北九州市立医療センター
研修プログラム統括責任者：加藤　治子
専門研修指導医：加藤　治子　（麻酔、ペインクリニック）
齋川　仁子　（麻酔）
武藤　官大　（麻酔、ペインクリニック、災害）
武藤　佑理　（麻酔、ペインクリニック）
原賀　勇壮　（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）
松山　宗子　（麻酔）
神代　正臣　（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）
豊永　庸佑　（麻酔）
中野　涼子　（麻酔、心臓血管麻酔）

小川　のり子（麻酔、ペインクリニック）
岡田　久乃　（麻酔、産科麻酔）

麻酔科認定病院番号：316
麻酔管理委症例数：3570
特徴：高度型がん診療拠点病院であり、ロボット支援手術を筆頭に高度がん医療の麻酔管理を経験できる。総合周産期母子医療センターも有しており、超緊急帝王切開を含め産科緊急や、出生直後の新生児外科症例も経験することができる。ペインクリニック学会指定研修施設であり、ペインクリニック診療や、緩和ケア（がん治療支援）も学ぶことも可能である。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+7912132

⑩　専門研修連携施設
社会医療法人敬愛会　中頭（なかがみ）病院（以下，中頭病院）
研修実施責任者：高橋　和成
専門研修指導医：高橋　和成（麻酔）
上川　務恵（麻酔）
花城　亜子（麻酔）
兼村　大介（麻酔）
平田　友里（麻酔）
専門医：清水　友理（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1007
麻酔科管理症例数：3359症例
特徴：当院は沖縄県中部にある、病床数355床の急性期総合病院です。診療科は一般外科、呼吸器外科、整形外科、脳外科、心臓外科、産婦人科、形成外科、耳鼻科などを有します。経験できる症例は多岐にわたり、麻酔科専門医研修に必要な症例は全て網羅することができます。救急・集中治療部門も充実しているので、研修中にローテーションすることも可能です。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：47+0412737

⑪　専門研修連携施設
地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市立こども病院
研修実施責任者：水野　圭一郎
専門研修指導医：水野　圭一郎（麻酔、集中治療）
泉　薫　　（麻酔）
住吉　理絵子（麻酔）
藤田　愛　　（麻酔）

小柳　幸　　（麻酔）
伊藤　恵　　（麻酔）
百瀬　未来　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：205

麻酔科管理症例数：2722 症例

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月 30～50 例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能。地域周産期母子医療センターであり、超緊急を含む帝王切開や双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術の麻酔管理も経験できる。外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛治療にも力を入れており、麻酔科主導で硬膜外鎮痛や PCA を管理している。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+0213355

⑫　専門研修連携施設

医療法人徳洲会　福岡徳洲会病院

研修実施責任者：北川　忠司

専門研修指導医：北川　忠司　（麻酔）
廣田　一紀　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
鳴尾　匡司　（麻酔）
丸内　貴子　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
瀬戸口 大典（麻酔、集中治療）
吉野　裕子　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
向江 美智子（麻酔、集中治療）
三根　里絵　（麻酔）
中村　尚子　（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号：689

麻酔科管理症例数：5266症例

特徴：年間10,000件を超える救急車を受け入れており、外傷、くも膜下出血、大動脈解離、急性腹症、帝王切開などの緊急手術症例を数多く経験できる。各科のロボット支援手術や循環器科で行うカテーテル手術（TAVI、MitraClip)の麻酔も実施する。また地域医療支援病院として、地域医療や災害医療の担い手となる実践的な麻酔科専門医を育成する。

医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+1619105

⑬　専門研修連携施設

九州大学病院

研修実施責任者：山浦　健

専門研修指導医：山浦　健　　（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
東　みどり子（麻酔）
白水　和宏　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
牧　盾　　（麻酔、集中治療、救急）
神田橋　忠　（麻酔）
住江　誠　　（麻酔、心臓血管麻酔）
崎村　正太郎（麻酔、集中治療）
福徳　花菜　（麻酔、緩和ケア）
石川　真理子（麻酔）
信國　桂子　（麻酔）
水田　幸恵　（麻酔、心臓血管麻酔）
浅田　雅子　（麻酔、ペインクリニック）
石橋　忠幸　（麻酔）
眞島　妙子　（麻酔）
中村　侑里　（麻酔）
渡邊　雅嗣　（麻酔）
中野　良太　（麻酔）
篠塚　翔　　（麻酔、ペインクリニック）
中島　考輔　（麻酔）
高森　遼子　（麻酔）
赤坂　泰希　（麻酔）
坂田　いつか（麻酔）

専門医：春田　怜子　（麻酔）
吉村　美穂　（麻酔）
上原　英梨子（麻酔）
福地　香穂　（麻酔）
松山　優梨子（麻酔）
小佐々　翔子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：8

麻酔科管理症例数：8241症例

特徴：九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大

動脈弁置換術)、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での幅広い研修を行うことができる。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：40+9819897

⑭　専門研修連携施設
佐賀大学医学部附属病院（以下，佐賀大学病院）
研修プログラム統括責任者：坂口　嘉郎
専門研修指導医：坂口　嘉郎（麻酔，集中治療）
山田　信一　（ペインクリニック・緩和ケア）
冨田　由紀子（麻酔）
谷川　義則　（麻酔，集中治療）
中川内　章　（麻酔，集中治療）
山下　友子　（集中治療）
中村　公秀　（麻酔，集中治療）
久我　公美子（麻酔）
天本　啓介　（麻酔）
平松　史帆　（ペインクリニック・緩和ケア）
野口　洋　（麻酔）
松林　佑亮　（麻酔）
専門医：力武　千晶　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：238
麻酔科管理症例数：4812 症例
特徴：佐賀大学病院では豊富で幅広い手術が行われ、ロボット支援下手術やハイブリッド手術室での血管内治療など高度で先進的な手術、合併症を有する重症患者の手術も多い。専門研修に求められる多様な麻酔症例、手技を十分に経験できる。ペインクリニック、集中治療の研修も可能である。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：41+9910067

⑮　専門研修連携施設
大分大学医学部附属病院
研修プログラム実施責任者：松本　重清
専門研修指導医：松本　重清　（麻酔，集中治療）
新宮　千尋　（麻酔）
内野　哲哉　（麻酔）
安部　隆国　（麻酔，集中治療）

小山　淑正　（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
大地　嘉史　（麻酔，集中治療）
中野　孝美　（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
甲斐　真也　（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
佐々木　美圭（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
小坂　麻里子（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
栗林　由英　（麻酔、集中治療）
池邉　朱音　（麻酔）
深野　菜摘　（麻酔）
小林　朋暉　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：237
麻酔科管理症例数：4696症例
特徴：麻酔管理だけでなく、周術期管理医学として、集中治療やペインクリニックの教育にも力を入れている。希望者は緩和ケアチームへのローテーションも可能である。
医療機関コード（都道府県＋医療機関）：44+8210672

⑯　専門研修連携施設
宮崎大学医学部附属病院
研修実施責任者：恒吉　勇男
専門研修指導医：恒吉　勇男（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
指宿　昌一郎（麻酔）
谷口　正彦　（集中治療）
山賀　昌治　（ペインクリニック）
山下　幸貴　（集中治療）
矢野　武志　（麻酔、手術部）
川﨑　祐子　（麻酔）
與那覇　哲　（集中治療）
田村　真由子（麻酔）
越田　智広　（集中治療）
太田尾　剛　（麻酔）
石山　健次郎（麻酔）
深尾　麻由　（集中治療）
日髙　康太郎（麻酔）
児玉　芳史　（麻酔）
吉海　瑞穂　（ペインクリニック）

興梠　聡志　（麻酔）
清水　拓海　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：174

麻酔科管理症例数：4889症例

特徴:宮崎大学では、麻酔の初歩から食道がん手術や心臓手術などの高度な麻酔に加え、ICU やペインクリニックなどの専門技術を習得する。最先端手術の TAVI 手術やロボット手術（ダビンチ手術）の麻酔も経験できる。

医療機関コード（都道府県＋医療機関）：45+8010063

⑰　専門研修連携施設

鹿児島大学病院

研修プログラム統括責任者：松永　明

専門研修指導医：松永　明　（麻酔、心臓血管麻酔）
五代　幸平　（麻酔）
中原　真由美　（麻酔，集中治療）
山田　知嗣　（麻酔，区域麻酔）
向原　桂香　（麻酔）
内野　えりか　（麻酔，集中治療）
針持　想　（麻酔，心臓血管麻酔）
萩原　信太郎　（麻酔，ペインクリニック）
櫻井　絵里　（麻酔）
鬼塚　一聡　（麻酔，産科麻酔）
入江　良彦　（麻酔）
鈴木　有希　（麻酔，ペインクリニック）
原田　那津美　（麻酔）
下之薗　莉瑛子（麻酔）
蔡　香織　（麻酔）
鮫島　弘子　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：56

麻酔科管理症例数：5162例

特徴：ペインクリニック、集中治療のローテーション可能。すべての特殊症例の経験が可能。大学院での研究も可能である。

医療機関コード（都道府県＋医療機関）：46+8010211

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限（2026 年 10 月頃）までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，福岡大学病院麻酔科専門研修プログラム website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

福岡大学病院麻酔科
三股　亮介
福岡県福岡市城南区七隈7-45-1
TEL 092-801-1011
E-mail mimamiamta@adm.fukuoka-u.ac.jp
Website http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/
http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/anesthe/index-j.htm

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）麻酔科領域，および麻酔科関連領域の十分な専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアル（https://anesth.or.jp/files/pdf/07-senkoi-kensyu.pdf）に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

１）勉強会/抄読会などの定期的な学習機会

月 1 回の割合で，施設内外，麻酔科領域以外の講師を招聘し勉強会を実施している。勉強会に参加することで幅広く，日々の診療に役立つ知識を習得することができる。週 3 回の抄読会で選ぶ論文は，現在の周術期管理に影響を受けると思われる国際的なガイドラインやレビューを対象としている。また，超音波ガイド下神経ブロックセミナー，困難気道管理（DAM）セミナー，呼吸管理セミナー等を年 1 回，その時のトピックスを取り上げた外部講師の招聘を含むセミナーを年数回開催している。

2）診療科での定期的な症例検討会

月曜日から金曜日の朝は各症例のプレゼンテーションを行い，同時に最終チェックを行う。また，月 1 回程度の症例検討会を行い，問題のあった症例，経験すべき症例を専門研修指導医とともに検討する。

3）関連診療科とのカンファレンス，勉強会

毎週火曜日には，心臓外科とともに予定されている心臓外科手術の術前カンファレンスを行っている。また，年に 1 回産婦人科と合同で無痛分娩研究会を開催している。

4）プログラム全体でのカンファレンス等の学習機会

毎朝開催される術前症例カンファレンス，月 1 回の勉強会の他に，年度末にプログラム関連施設全体の研究会を開催し，麻酔科領域の専門知識の習得をはかる。

5）学会等での学習機会への計画的な参加

日本麻酔科学会，日本麻酔科学会九州支部会への参加、発表を必須とする。また，米国麻酔学会，欧州麻酔学会等の国際学会，日本集中治療医学会，日本ペインクリニック学会，日本緩和ケア学会等の麻酔関連学会への参加、発表を積極的に行う。

6）自己学習の環境整備

本プログラムの研修医師には，文献や教材等へのアクセスができるよう付属図書館への電子アクセスおよびデータベースの検索権限を発行し，自己学習の環境を整えている。

7）医療倫理，医療安全，院内感染対策等の学習機会

医療倫理や医療安全，院内感染に関する院内講習会が定期的に開催されており，受講を義務としている。

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料麻酔科専攻医研修マニュアル（https://anesth.or.jp/files/pdf/07-senkoi-kensyu.pdf）に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアル（https://anesth.or.jp/files/pdf/07-senkoi-kensyu.pdf）に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う. 研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる.

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する.

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる.

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある.

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する.

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての福岡大学筑紫病院、福岡東医療センター，福岡市立こども病院，白十字病院，福岡徳洲会病院，北九州市にある北九州市立医療センター，佐賀県唐津市にある唐津赤十字病院，沖縄県沖縄市にある中頭病院の他、九州内の専門研修基幹施設（大学病院）など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

本研修プログラムの連携施設では十分な指導医の数と指導体制が整っているが，指導体制が十分でないと感じられた場合，専攻医は研修プログラム統括責任者に対し

て，直接文書，電子媒体などの手段によって報告することが可能であり，それに応じて研修プログラム統括責任者および管理委員会は，研修施設およびコースの変更，連携施設病院からの専門研修指導医の補充，専門研修指導医研修等を検討する。

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．